

3月31日(月)

耳に心地よいことば

聖書朗読 I列王記 12:1~15

というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分に都合の良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

IIテモテ 4:3

皆さんは政治家の選挙公約を真剣に聞いているでしょうか。私たちはただ心地よいことだけを聞きたいと思いますし、結局そのような事にしか耳を傾けなくなっているのではないでしょうか。レハブアム王の時代もそうでした。この時代の人々は、ソロモン王の息子であるレハバアム王に、ソロモン王が彼らに課した重荷を軽くして欲しいと訴え、もしそうしてくれるなら彼に仕えろと約束しました。

レハブアム王が長老たちに相談したところ、長老たちの助言は、『彼らに親切なことばをかけてやってくださるなら、彼らはいつまでもあなたのしもべとなるでしょう。』というものでした(I列王記 12:7)。けれども、レハブアム王は、さらに慎重に考えるべく、彼に仕える若者たちに相談しました。彼らのアドバイスはどのようなものだったでしょう。『私の父はおまえたちに重いくびきを負わせたが、私はおまえたちのくびきをもっと重くしよう』と言ってはどうでしょうというものでした(I列王記 12:11)。そこで下したレハブアム王の決断は、『私の父はむちで彼らを懲らしめたが、私はさそりでおまえたちを懲らしめよう』というものでした(I列王記 12:11)。

レハブアム王は、利己的で非情な指導者でしたが、そのような政治家がいたとしたら、私たちはその人に投票するでしょうか。そのような人物を選ぶことなどあり得ないでしょう。けれども、神様はどのような困難なときであっても、眠っておられたり、どこか別の所におられたりするようお願いではありません。民衆が、ただ耳に心地よいことを求めている時に、神様は真理を彼らに諭し、愛と忍耐をお与えになったのです。

神様は、すべてをご存知で、愛を示し、忍耐を持って待っておられるお方なのです。

讃美歌 第二編 106

祈り 父なる神様。どうか私たちの受けるべきものを与え、それによって心を喜ばせてください。あなた様こそ、あらゆる良きもの、全き賜物をお与えになるお方です。私たちに成して下さったすべてを褒め称えます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スティーブン・クラーク・ゴード
カリフォルニア州 ブリス

今日の力

2014年3月31日～4月6日

翻訳 山田エミ

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月1日(火)

父なる神を求める

聖書朗読 II歴代誌 34:1～15

私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。 IIテモテ 1:5

ダビデと比べるとソロモンのほうが富は多く持っていました、イスラエルの王たちのうち優れた者の基準とされているのはダビデです。その基準に達していたと思われるのは、ヒゼキヤとヨシヤの2人の王だけではないでしょうか。独裁者というのは、例えば、北朝鮮やシリアなどを見ると、父よりも息子の方が残虐と思われますが、ヨシヤはそうではありませんでした。ヨシヤは、父親アモンが家来たちに暗殺されたため8歳で王となりました。アモンとその父マナセは、ユダヤ人にとって、信仰上の災いとなる存在でした。

そのような残虐な父と祖父を持つ8歳の子が、いかにして良き者となったのでしょうか。今日の聖書朗読箇所第3節に、大切な答えが二つ与えられています。『彼はまた若かったが、その先祖ダビデの神に求め始め、』

- ・彼は正しい先祖ダビデを選んだ。
- ・彼は神を求めることを選んだ。

若いヨシヤには、歴史を振り返り、よく考え、神に忠実であるよう導いてくれる相談役がいることはいましたが、両親の信仰にただ従うほうが容易ではないでしょうか。ヨシヤは16歳で神を求め、その歩みは常にチャレンジに満ちたものだったことでしょう。けれども、そのようなチャレンジに満ちた人生を私たちは子どもたちに望むのではないのでしょうか。私は、若いときに、神を求めるよう私を導いてくれた信仰深い人達が周りにいてくれたことを、いつも感謝しています。主が若い人達のために、そのような信仰深い人々をお遣わしくくださるよう祈りましょう。

讃美歌 第二編 20

祈り 父よ。あなた様を求めるよう、若い者たちを導いてくださる教会の教師たちをお与えくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ティム・ケリー
カリフォルニア州 チコ

4月2日(水)

神の呼びかけに気づく

聖書朗読 ネヘミヤ 1:1～10

私はこのことばを聞いたとき、すわって泣き、数日の間、喪に服し、断食して天の神の前に祈って、
ネヘミヤ 1:4

ネヘミヤ記第一章には、荒れ廃れたエルサレムの城壁を再建するため、エルサレムに自分を遣わして欲しいという、ネヘミヤの切なる願いが記されています。神様はネヘミヤに彼の人生の目的について語られていたと思いますが、聖書にはそのようなことは明確に示されていません。ネヘミヤは、心に痛みを覚えてそのように願い、再建の必要を聞き、彼の信仰的な良心から行動を起こすことを願ったのです。

私の住むアラバマ州でも、竜巻が深刻な被害をもたらした後で、同じ様なエピソードを聞きました。クリスチャンたちが、時間と労力を犠牲にして近隣の住民たちを助けたのです。彼らは「神の声」により命令されたから行動を起こしたのではありません。そのような命令は必要ではありませんでした。ネヘミヤと同じ様に、私たちは痛みを覚えることによって、行動することに駆り立てられるのです。

信仰と神のみことばにより養われた良心が、自分に行動を起こさせようとするときは、いつでも実際に行動に移しましょう。この世には軽率な指示がしばしばありますが、心の声に耳を傾けましょう。

讃美歌 237

祈り 父なる神様。どうか周囲の人の必要と、私の人生におけるあなた様のみにこころに敏感になることができるようにしてください。大きな必要を感じて私が心に痛みを覚えるとき、どうか一歩進んで応えることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケリー・ウィリアムス
アラバマ州 フローレンス

4月3日(木)

救 い と い う 道

聖書朗読 エステル 9:18~32

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

I ペテロ 2:9

悲観的な人は、「歩むべき(人生の)道はただ受け入れるしかない」と言うでしょう。好ましくない状況でも忍耐強く受け入れることを私たちに教え諭す昔からの格言なのかもしれません。これを考えると、人生は辛く厳しく、ただ耐え忍ぶべきもののように思えます。

けれども、ちょっと待ってください。私たちの「歩むべき道」を前向きに捉えてみたことはありますか。エステル記のプリムという言葉は、プル、つまり、くじという語から取られたものです。エステル記3:7には、ユダヤ人を滅ぼす月日を決めるために、くじが投げられたとあります。けれども、ユダヤ人は滅亡する代わりに、その月に救われることとなったのです。そして、その月は、その何百年も前に、神様がエジプトからユダヤ人を救い出されたまさにその月だったのです。彼らの「歩むべき道」は救われることだったのです。

このことは、私たちにも言えることです。私たちは選ばれ救いにあずかることができたのです。私たちの歩むべき道は、神様の愛のうちにあり、その御子によって救われることなのです。私たちは、選ばれ、人生を喜びを持って歩むことができます。たとえ、困難な只中にあっても。なぜなら、私たちは、どなたに属しているかを知っているから。人生の問題をただ「歩むべき道」と捉えるのはやめて、完全に選ばれた者の歩みに溢れる喜びで満たされましょう。

聖歌 430

祈り 親愛なる主よ。あなた様の御子をこの世にお送りくださり、救いという「歩むべき道」をお与えくださり、罪から解放してくださり感謝します。あなた様の子と呼ばれる特権を覚え、光の子らしく歩むことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州 ラボック

4月4日(金)

古き世界観は今もなお

聖書朗読 詩篇 8:1~9

主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

詩篇 19:8

詩篇8編には、神を中心とした世界観の基である、三つの要素が描かれています。それは、神がおられるということ、神が宇宙を創造されたこと、そして、神は私たちを心に留めておられるということです。

主よ、私たちの主よ。この地上においてあなた様の御名はなんと偉大でしょう。神について、何よりも基となる真理は、神がそこにおられるということです。私たちは、しばしばそのことを忘れてしまい、多くの人は、そのことを信じてすらいらないのではないのでしょうか。さらに、神は人格をもっておられ、単なる力やこの世の何らかの叡智の象徴ではないのです。

天を仰ぎみると、私は神の指の業を思います。この世は、人格をもっておられる神の創造されたものです。ダビデは私たちに、神とそのみちからへの驚きをもって、これら被造物から学びそれらを楽しむよう薦めています。

『人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。』(詩篇 8:4)。詩篇の著者は(動物ではなく)人を称賛し、神が真に私たちに心を留めておられることを私たちに教えてくれています。神様の偉大なる被造物に思いをめぐらすと、このことに驚きを感じざるを得ません。

詩篇 19 篇でダビデは、このように語ります。『主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。』神のみことばを思い巡らすとき、神は、正しい世界観を持たせてくださいます。詩篇8篇は、21世紀を生きる私たちに驚くほど関わりのあるものではないでしょうか。多くの人が理解できない根本的な真理を語っています。私たちは、時代ごとに変化する思想によって揺れ動かされてしまうことが無いために、このような真理が必要なのです。

讃美歌 457

祈り 親愛なる神よ。私たちの目を開き、私たちの周囲の被造物にもあなた様のみことばにも、あなた様のご臨在を悟ることができるようにしてください。知恵を与え、周囲の人達に親切心をもって接することができるようにしてください。私たちの周囲にある、神から離れた世界観に直面するとき、真理に堅く立つことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

リサ・ラングフォード
テキサス州 ラボック

4月5日(土)

金塊は私のものではない

聖書朗読 詩篇 33:16～22

身分の低い者から高い者まで、みな利得をむさぼり、 エレミヤ 8:10

私のいとこのラフスは1930年代に駅員の仕事をしていました。あるとき彼の勤務先の駅に大きな重い荷物が運び込まれました。それはメキシコから運ばれてきた何十億にもなる金塊が詰まった荷物だったのです。一緒に働いていた彼の同僚はそれをどこかに保管して、金を溶かして、それを手にして退職しないかとラフスを誘ってきたのですが、ラフスは「いや。だめだ」と断りました。

同僚が「何故？」と聞くので、ラフスはこう答えたのでした。「毎朝起きるたびに、ひげを剃る自分を鏡で見て、そこに泥棒の顔を見たくない。この金は私のものではない」。そこで、彼は本部に電話をかけ、金塊を誤って運搬していないかどうか確認しました。本部では二日間かけて必死に探したようです。ラフスは彼らに、「こちらにあるようなので、そちらに送り返します」と伝えたのでした。

私は親族の集まりの時、彼にその金塊を送り返してしまったことを後悔していないかと尋ねると、彼は「微塵もそんなこと思ったことはないさ。あの金塊は僕のものじゃないし、それを懐に入れてしまおうなど全く考えもしなかったさ」。

ラフスは長生きし豊かな人生を送りました。このエピソードのような誘惑に対する彼の姿勢は、彼のイエス・キリストとの約束を表しているように思われます。神の道に従うことを決心した彼の人生には、食欲さというものは、ひとかけらも無かったのです。

どなたに従うのか、何を読むのか、私たちの心が変えられることを考えましょう。イエス・キリストとその御愛が、私たちを新しくしてくださいます。

讃美歌 452

祈り イエス様、あなた様の義を感謝します。あなた様の義によって、私たちが究極の良きものを選ぶよう導かれていることを感謝します。誘惑に遭うとき、どうか聖霊さまがともにいてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ポルティス・リブレ

テキサス州 サンアンジェロ

4月6日(日)

飢え 渴く 鹿

聖書朗読 詩篇 42編

鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。
詩篇 42:1

私の実家へ行くまでの道は、山の尾根に沿った道で、クリンチ川の上流から下流へと向かいます。この道を車で走るときには、しっかりと注意を払わなければならないことを、そこを通る人なら誰でも知っています。それは、鹿が川の水を飲み込んでその道を絶えず横切って行くからです。ドライバーの多くが、鹿が突如として目の前に現れ、ぶつかったり、あるいは、ぶつかりそうになったという経験をしています。

神様は、神様とその義に対する「渇き」と「飢え」について多く語られています。神様のみことばは、私たちに繰り返し、永遠に対する飢えを感じるよう促しておられます。私たちの渇きを癒してくださるのは、神様しかおられません。私たちは、神様によって造られたのです。

マタイ5章で、イエス様は私たちが主に対する飢え渇きを強く感じるということがいかに恵まれたことであるかについて語られています。神様は、私たちがすべてにおいて、義に飢え渇き、神様を求めることを望んでおられます。

こうした渇きや飢えをどうしたら心に感じ、成長させ、維持することができるでしょうか。私たちの人生の歩みにおいて、霊的なものに集中すること、みことばを学び、祈り、礼拝すること、これら以上に大切なことはありません。これらを実践し続けましょう。

讃美歌 鹿のように

祈り 親愛なる父よ。あなた様を求めて渇きを覚えるという永遠の教えを感謝します。あなた様の子どもたちを満ち導いてくださる聖霊の賜物を感謝します。
イエス様のお名前によって。アーメン。

W・スコット・ウッドリー

テネシー州 キングストン